

農地中間管理事業評価委員会の意見について

1 開催時期及び手法

令和2年6月

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、事務局が各評価委員を訪問して意見を聴き取る又は書面での意見提出により実施

2 評価委員の氏名等

所属・役職	氏名
三重大学大学院 准教授	中 島 亨
三重県担い手ネットワーク代表	藤 田 康 之
三重県稲作経営者会議会長	南 出 紀 光
税理士・農業経営アドバイザー	濱 口 勝 志
司法書士・行政書士	鈴 木 尚 文
三重県中央農業改良普及センター 所長	竹 田 久 夫

3 議事事項

- ・ 令和元年度事業実施状況と今後の対応について（報告）
- ・ 報告に対する意見及び評価

4 評価委員会の意見等

（1）令和元年度事業の実績について

令和元年度は、担い手との意見交換会の回数や物納の量も増えるとともに新たに機構事業に取り組む町や集落も出ており、事業への努力と一定の成果があったと考えられる。

しかしながら、実績は前年度とほぼ同じの約270ha（達成率約38%）に留まっており、現状では700haの目標達成はかなり厳しい状況にあることを真摯に受け止める必要がある。

今後は、これまでの取組の強化をはじめ、農地中間管理事業法の一部改正に適切に対応していくとともに、県、市町や関係団体等と連携を図り、より効率的で効果的に取り組んでいく必要がある。

（2）今後の推進に向けて

中間管理事業の活用促進に向けた各方策が担い手への集積率の向上につ

ながっているかの評価や、さらに集積率を効果的に上げるための方策について検討いただくとともに、集積率以外に中間管理事業の成果を表す指標についても検討いただきたい。

また、農地中間管理事業法の一部改正の周知等の機会をきっかけとし、事業の一層の活用促進を出し手や担い手に働きかけていく必要がある。

国や県に対しては、担い手の高齢化が進んでいることから後継者の育成支援や大規模農家だけでなく中小規模農家も引き続き安心して営農できる環境の整備を望みたい。

なお、今回の新型コロナウイルス感染拡大防止への対応を契機として、農業者等との交流の機会における感染防止策やオンライン会議等の意見交換方法についても検討をいただきたい。